

## 1. 目指していること

ラウンドテーブルセッションはいくつかの発表内容を核にして参加者たち（発表者たちと聴衆たち）が、「共創」あるいは「むきあう」という共通のテーマについて、インタラクティブに議論をする場を提供するために設置されています。

個々の活動・研究について発表と質疑応答をするという定型的な形式を取るのではなく、紹介される活動・研究を絡み合わせた自由闊達な議論が、発表者から視聴者への質問、視聴者から視聴者への質問など、発表者と視聴者という役割分担を超えたかたちで進み、「共創」あるいは「むきあう」に関わるものごとを織りなす（共創する）ことを期待しています。

## 2. 事前準備

参加するラウンドテーブルで発表される活動・研究の予稿を読み、発表者に質問したいこと、発表内容に関連づけて発表者や視聴者（聴衆）に問いたいことや投げかけたいことを予め考えておくことをお勧めします。

- 発表者（Type 1, Type 2）は、ポジショントーク（3 節・セッションの流れを参照）のプレゼンテーション資料と自由討論で使うことを想定した詳細なプレゼンテーション資料をわけて用意しておくといよいでしょう。
- 発表者（Type 2）は、Type 2 のポジショントークにおいて、前日の Type 1 セッションで自身の研究に関連して議論したことで、腑に落ちておらず、相談あるいは議論したいことを項目として必ず提示するようにしてください。

## 3. セッションの流れ（Type 1, Type 2 共通）

### 1) ポジショントーク

発表者が自身の活動や研究を通して気づいたことや主張したいことを与えられた時間（5 分程度）で説明します。ZOOM で画面共有をして資料を提示することができます。下記の内容について言及してください。発表ごとの質疑応答はここでは行いませんので、要点を簡潔にかつ重大な遺漏がないように説明してください。

- 活動や研究が目指すものごと（実現させたい状況や明らかにしたいこと）
- 活動内容や研究方法
- 得られた成果（事実）
- 「共創」や「むきあう」に関する気づき
- 今後の展望

## 2) 自由討論

発表内容に関連づけて「共創」や「むきあう」について議論します。個々の発表についての深い議論や発表全体を結びつける議論などが考えられます。下記を留意してください。

- 場を独占しないこと（発言は簡潔に、質問や意見表明は一度に一つ）
- 専門領域に関する内容は当該領域に明るくない参加者が理解できるように話す
- ファシリテーターの指示があるときはそれに従うこと
- 発表者から視聴者に質問やコメントをしても構いません
- 視聴者から視聴者に質問やコメントをしても構いません

## 4. ファシリテーターの役割

参加者たちの自主的で活発な議論を促す役割を担います。ファシリテーターも参加者の一人となって構いません。有意義な議論が行われるよう、必要に応じて、司会、タイムキーパー的な役割も担ってください。

- ポジショントークの順番についてセッションの場で決める方法を考えておいてください。発表者が「私、行きます！」という即興性に期待してもよいし、予稿の内容を踏まえてセッション開始時に決めるなど複数のやりかたがあります。
- 視聴者の発言も討論の最中に、適宜、促して取り上げてください。視聴者の発言を「(パネルディスカッションにありがちですが) 時間の最後の方」に固めないようにお願いします。

以上